

# パネルディスカッション —withコロナ下の対話実践—

15:45-16:30

## パネリスト

石原孝子氏，松江エネルギー研究会  
大矢恭久氏，静岡大学 社会合意研究会  
幸浩子氏，W.I.S.E. 教育企画 チームEEE  
(司会進行)

山野直樹，NPO法人 RADONet

# 今回のパネリストの共通点

- ・日本原子力文化財団の学習提供事業に参画している。
- ・次世代層を含む若い方々を対象としている。
- ・対話方法がユニークで相当の工夫がなされている。
- ・他団体との連携に積極的である。

# パネルディスカッションの論点

- **新型コロナ禍での対話活動の難しさ。**  
困難である(容易ではない)こと、  
その解決のために工夫したことなど。
- **地域間の連携協力について。**  
100を超える多くの地域団体が活動しているが、  
地域団体間の連携や協力の在り方。  
活動団体の経験や知見(ベストプラクティス  
など)の共有方法。
- **新型コロナ禍が続く中での新たな対話方法。**
- **その他**

# パネルディスカッションの論点

- **新型コロナ禍での対話活動の難しさ.**  
困難である(容易ではない)こと、  
その解決のために工夫したことなど.
- **地域間の連携協力について.**
- **新型コロナ禍が続く中での新たな対話方法.**
- **その他**

# パネルディスカッションの論点(1)

- **新型コロナ禍での対話活動の難しさ**  
困難である(容易ではない)こと、  
その解決のために工夫したことなど.
- 学生集めが出来なかった. 知り合いの担当教授から紹介をしてもらっているが、学校自体がリモート授業で難しかった.
- 出前授業の実施が非常に困難.
- ZoomやMSTeamsを使った遠隔授業の提案.
- 遠隔(リモート)授業の場合、実験、体験、デモンストレーション実施の難しさ.
- リモートに対して一般の人には嫌悪感があり、リモート講演会を企画段階で却下された.
- Zoomなどに慣れていない先生方は、練習やリハーサルが複数回必要. →大きな負担.
- 現段階は工夫なし. 今期は地固め、スキルアップの時期.

# パネルディスカッションの論点

- **新型コロナ禍での対話活動の難しさ.**  
困難である(容易ではない)こと、  
その解決のために工夫したことなど.
- **地域間の連携協力について.**  
100を超える多くの地域団体が活動しているが、  
地域団体間の連携や協力の在り方。  
活動団体の経験や知見(ベストプラクティス  
など)の共有方法.
- **新型コロナ禍が続く中での新たな対話方法.**
- **その他**

# パネルディスカッションの論点(2)

## ・地域間の連携協力について.

100を超える多くの地域団体が活動しているが、地域団体間の連携や協力の在り方、活動団体の経験や知見(ベストプラクティスなど)の共有方法.

- ・今年度はリモートのお陰で知り合いが増え、今後につながる。(エネ庁関連や所属団体などで、いろいろなりモートで勉強会、会議があり、色々な方と知り合いになれた.)
- ・他団体と知り合いになる機会として、原文などに紹介を.
- ・2月の報告会での活動報告だけでなく、お互いに実際の活動に参加できないか提案したが、却下された(例えば、私の出前授業を参観する、出前授業にお手伝いとして参加する、とか、出前授業実施に呼んでいただく、とか)

# パネルディスカッションの論点

- **新型コロナ禍での対話活動の難しさ.**  
困難である(容易ではない)こと、  
その解決のために工夫したことなど.
- **地域間の連携協力について.**  
100を超える多くの地域団体が活動しているが、  
地域団体間の連携や協力の在り方。  
活動団体の経験や知見(ベストプラクティス  
など)の共有方法.
- **新型コロナ禍が続く中での新たな対話方法.**
- **その他**



# パネルディスカッションの論点(3)

- **新型コロナ禍が続く中での新たな対話方法.**
  - ハイブリット講座(地域ではリアル開催で、講師はリモート)をシリーズ開催(地域においては、やはり対面講座により、地域の連携が保たれる。が、リモート嫌悪感払拭の為と、コロナ禍での成果として、普段は御呼び出来ない講師を依頼し、それをシリーズ化する。)
  - 学生にも広く参加を呼びかけるだけの魅力作りを企画
  - みゆカフェのリモート(Zoom、MSTeams、小学校の学校放送その他)
  - 現場の先生と一緒に動く(教える、実施する)
  - 子供の年齢や、パソコンの利用に慣れているかどうか(先生、生徒、児童)

# パネルディスカッションの論点

- 新型コロナ禍での対話活動の難しさ。  
困難である(容易ではない)こと、  
その解決のために工夫したことなど。
- 地域間の連携協力について。
- 新型コロナ禍が続く中での新たな対話方法。
- その他

# パネルディスカッションの論点(4)

## ・その他

もしかすると、他団体の活動にはあまり興味ないのでは？  
と思われるのですが如何でしょうか？

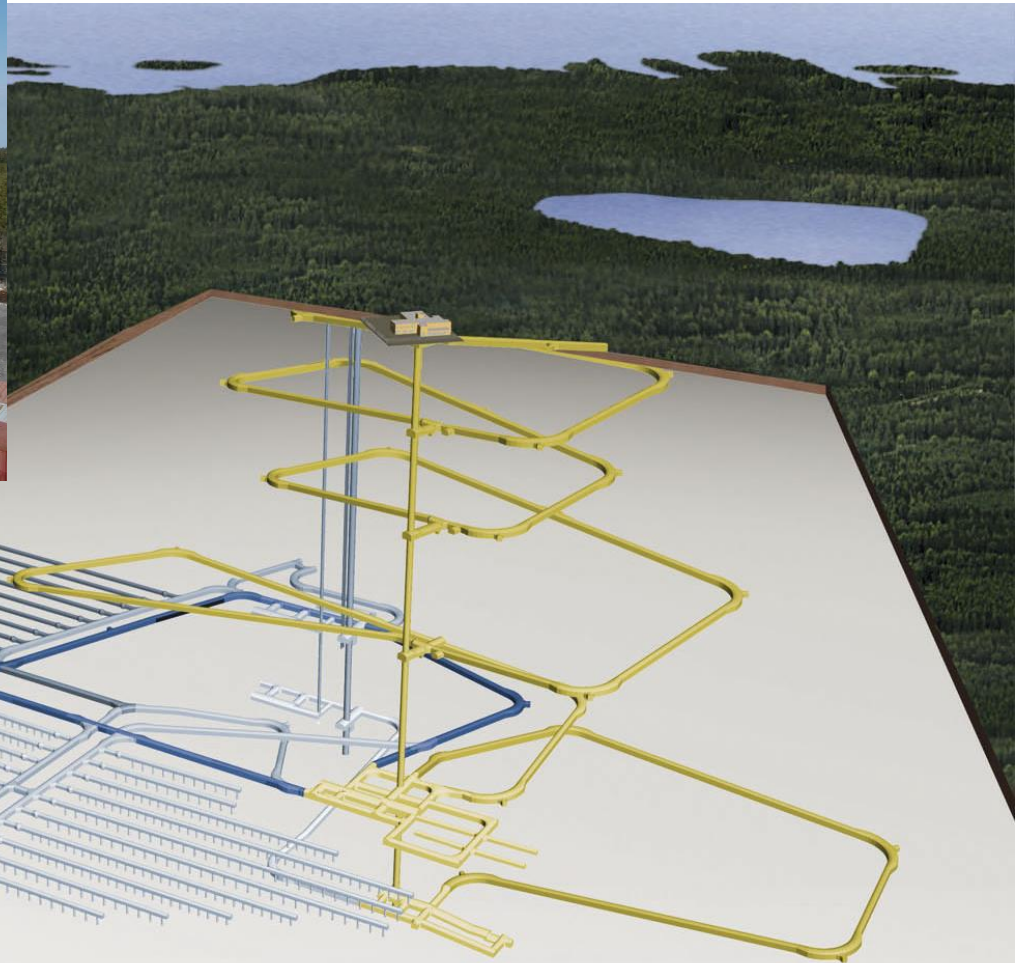
- 活動が存在することを知らないことが多いのではないか。  
このような活動をどこで探すのか、どうすれば見つけることができるのか。例えば、私の活動は、小学校以上が対象であるが、原文財団では、講師派遣の対象が「全国の中学校・中等教育学校・高等学校での授業、教育職員の研修会等」となっているため、支援して下さっている原文財団のHPでも見つけることは難しい。

新型コロナ禍でもオンラインを活用する事例が増えている。例えば、ハーバード大学、スタンフォード大学などの名物教授の授業は世界中から見られることで有名。

- フィンランドのオンカロはYoutubeでも見られる。みなさんもYoutubeに動画をアップすれば見てもらえる。

# フィンランド (ONKALO)

<https://youtu.be/kVPBWQxG-o8>



エウラヨキ自治体のオルキルトが最終処分地に決定され、地下特性調査施設 (ONKALO) が建設された。